5月27日のウクライナ情報

安斎育郎

●中国の特別代表、ウクライナでの停戦を呼びかける（2023年5月26日）

中国のユーラシア問題担当特別代表を務める李輝氏は欧州を訪問し、ウクライナでの即時停戦を呼びかけた。ウォール・ストリート・ジャーナル（WSJ）が報じた。

同紙は「中国特使は、（中略）米国の欧州同盟国は即時停戦を（中略）呼びかけるべきだという明確なメッセージを届けた」と報じている。

WSJ は西側諸国の当局者を引用し、李氏は欧州諸国の当局に対し、ウクライナ紛争が激化する前に紛争停止に向けて力を尽くし始めるよう呼びかけたと報じている。

一方、消息筋によると、ロシアがウクライナから軍を撤退させなければ、紛争の凍結は国際社会の利益にかなわないとの認識が李氏に対して示されたという。

李氏は 26 日、モスクワに到着した。同氏はロシアのラブロフ外相およびガルージン外務次官と会談する。

●宇国防省、1991 年の国境回復に必要な F16 の数を発表（2023年5月27日）

ウクライナ国防省は 1991 年の国境を回復する上で必要な F16 戦闘機の数は 48 機と発表した。

国防省の投稿によると、ウクライナが国境を回復するには 4 飛行大隊が必要だという。これを戦闘機の数に換算すると、48 機に相当する。

先に米 CNN が報じたところによると、バイデン大統領は G7 首脳に対し、ウクライナ兵による戦闘機操縦の訓練を許可したという。対象となる戦闘機の中には F16 も含まれる。ポリティコ紙によると、ウクライナ軍のパイロットらは F16 を含む戦闘機の訓練を欧州で受けるとのこと。

スプートニク通信は先に、F16 とそれに対抗できるロシア製戦闘機の特徴について報じた。

●ポーランドの国名が「ウクロポリ」に？　現地メディアが移民危機を指摘（2023年5月27日）

ポーランドはウクライナ難民に占領され、その国名が世界地図から消える可能性がある。ポーランド・メディア NDP のコラムニスト、ハンナ・クラメル氏が指摘した。

クラメル氏はコラムの中で次のように警鐘を鳴らした。

「直近の数年間で政府は一貫してポーランドを破壊し、ますます多くの占領者を誘致している。仮にこのまま行く場合、我々はまもなく欧州の地図から消えるだろう。というのも、ポーランドの代わりにここではウクロポリ（「ウクライナの町」、ポリは「町」ポリスを意味する）が誕生するからであり、ポーランド人はネオ・バンデラ主義者（バンデラはナチスに協力したウクライナ民族解放運動の指導者）たちの奴隷となるだろう」

ウクライナ難民の流入はポーランドに大きく影を落としている。難民は支援を必要とするだけでなく、違法武器の持ち込みにより犯罪率の増加を引き起こしているという。これによりポーランド市民を危険に晒しているとコラムニストは指摘している。

先にポーランド紙「ムィシュル・ポルスカ」のコラムニスト、コンラド・レンカス氏はウクライナの民族主義を除去（非ナチ化）する必要性を主張していた。

●【解説】ウクライナ向けの新型防空システム「NASAMS」は、戦場で損失したパトリオットの「代替品」？（2023年5月27日）

米国防安全保障協力局は 24 日、中距離防空システム「NASAMS（ナムサス）」と関連機器を推定 2 億 8500 万ドル（約 400 億円）でウクライナに売却すると米国議会に通告した。この発表は、16 日にロシアの極超音速ミサイル「キンジャール」がウクライナにある多機能レーダーステーションと米国製対空ミサイルシステム「パトリオット」の発射台 5 基を破壊したことを受けたもの。スプートニクは NASAMS の特徴と、同システムがウクライナの戦場でどのような役割を担っているのかをお伝えする。

NASAMS の特徴

NASAMS は地上配備型の防空システムで、コングスベルグ・ディフェンス＆エアロスペース（ノルウェー）とレイセオン（米国）によって開発された。同システムは、敵の固定翼機、回転翼機、無人航空機、新型の巡航ミサイル脅威を探知・追跡・迎撃・破壊する。

NASAMS には、3 基のマルチミサイルランチャー（LCHR）が搭載されており、各ランチャーには最大 6 基の中距離ミサイル「AIM-120 AMRAAM」が搭載されている。AIM-120 AMRAAM は、空

対空と地上発射の両方で使用できるミサイル。このミサイルは全天候型で、目視外戦闘能力を有し、有効射程は 30 キロメートル、(地上の NASAMS から発射した場合の)飛行高度は 2 万 1000 メートルになる。

移動式発射装置はファイア・ディストリビューション・センター(FDC)という制御モジュールに接続されており、FDC から最大 25 キロ離れた場所に設置できる。NASAMS の大隊は 72 発のミサイルを搭載した最大 12 基の発射装置で構成され、すべてのミサイルを異なる標的に対して 15 秒以内に発射することができる。これらの標的は、AN / MPQ-64 センチネル レーダー(レーダー範囲は 120 キロメートル)によって定められる。

ウクライナは NASAMS を損失

NASAMS の製造元であるレイセオンのグレッグ・ヘイズ CEO によると、米国は 2022 年 10 月初旬に、NASAMS の供与第一弾として 2 基をウクライナに譲り渡した。また、このシステムには AIM-120 AMRAAM が搭載されていた。

米国防総省はレイセオンと 12 億ドルの契約を結び、合計 8 基の NASAMS がウクライナに供与されることが決まった。供与終了日は 2025 年 11 月 28 日。2023 年 1 月と 3 月には、カナダが NASAMS を 1 基、ノルウェーが 2 基をウクライナに供与する意向を表明した。

昨年秋に配備された 2 基の NASAMS がウクライナの戦闘能力を向上させたかどうかは分からない。ロシア国防省は 2023 年 2 月 3 日、ロシア軍は防空システムの 1 つを破壊したと発表した。

米国は、ウクライナの防空システムを改善する取り組みとして、2022 年 12 月に客観的な理由から NASAMS より優れた地対空ミサイルシステム「パトリオット」を 1 基供与した。NASAMS は一般的に狭い範囲の地上エリアや特定の目標を守るために使用される中距離防空システムであるが、パトリオットは軍事基地や都市などの広いエリアを守るために設計された長距離防空システム。

パトリオットは配備から 1 カ月後、ロシアの極超音速ミサイル「キンジャール」からの攻撃を受けた。NASAMS 供与の目的が防空上の「穴」を塞ぐことであると仮定すれば、NASAMS がパトリオットに取って代わる可能性は低い。NASAMS は、ロシアの巡航ミサイル「カリブル」や弾道ミサイル「イスカンデル」はもちろん、超音速ミサイル「キンジャール」を迎撃することができない。

NASAMS はロシア製に劣る?

軍事専門家のアレクセイ・レオンコフ氏はロシアのメディアの取材に対し、NASAMS はロシアの防空システムよりも劣っていると指摘した。

「我々のシステムは技術的にも能力的にも優れている。我々には Buk-M2 や Buk-M3 があるが、これらは目標に対してはるかに効果的に機能し、検出も撃墜の点においても優れている」

●NATO は F16 用ミサイルの不足に直面している＝英専門家（2023年5月27日）

英国防省の元高官で退役英空軍中将のエドワード・ストリンガー氏はフィナンシャル・タイムズ紙への寄稿で、F16 戦闘機について、単純な単発機で量産されており予備部品もたくさんあると思われるため、前線での整備には問題がないはずだが、それよりもはるかに重要なのは、ウクライナの西側同盟国のうちどの国が F16 用の高価な「空対空」ミサイルをウクライナに供与するかだとの見方を示している。

「各国の国家備蓄は機密扱いとされているが、NATO（に加盟する国々の）空軍の大半が国家備蓄の不足に直面していることは誰もが知っている」

ストリンガー氏によると、米国製ミサイル「Amraam（アムラーム）」は非常に効果的だが、1 発あたりの価格は約 100 万ドル（約 1 億 400 万円）であり、欧州の長距誘導ミサイル「Meteor（ミーティア）」はさらに高価だという。同氏は、このような状況の中で、同盟国の軍は緊急にミサイル供与を加速することになるだろうとの見方を示している。

スプートニク通信は先に、F16 とそれに対抗できるロシア製戦闘機の特徴について報じた。

●キエフでのパトリオットに対する露キンジャールの攻撃は、太平洋地域における米国の脆弱性を示した＝メディア（2023年5月27日）

ロシアの極超音速ミサイル「キンジャール」が、ウクライナの首都キエフに配備されていた米国製の防空システム「パトリオット」を破壊したのは、太平洋地域における米国の重大な脆弱性を示した。サイト Military Watch Magazine（ミリタリー・ウォッチ・マガジン）が報じている。

「パトリオットを破壊し、32 発の地対空ミサイルの迎撃を回避する『キンジャール』の能力は、同種のミサイルの非脆弱性に関する予測がおそらく正しかったことを示している」

観測筋によると、米国にとって悪いニュースは、太平洋地域の米軍基地が多数の防空システム「パトリオット」でカバーされており、ロシアの「キンジャール」と同様の特性を持つミサイルを北朝鮮軍が保有しているということだ。

記事の執筆者は、両国間で大規模な紛争が発生した場合、北朝鮮はこの方向で米国の防空システムを突破し、精密な攻撃を行うことができるとの見方を示している。

これより先、5 月 16 日に「キンジャール」がキエフで多機能レーダーステーション 1 か所と「パトリオット」の 5 つのランチャーを攻撃、破壊したと発表された。

●【解説】ロシアの防空システム「S-350」の特徴とは？　米国のパトリオットより優れている理由は？（2023年5月25日）

ロシアの対空ミサイルシステム「S-350（ヴィーチャシ）」は、世界で初めて、戦闘下で完全自動制御で特別軍事作戦区域の敵の航空目標を撃墜した。この「勝利の」防空システムの特徴は何だろうか？そして、米国の地対空ミサイル「パトリオット」と比べて、どのような点で優れているのか？これらの質問に対する答えは、スプートニクの記事をお読みください。

S-350 の特徴

S-350 ヴィーチャシ（注：ヴィーチャシは、古代ロシアにおいて勇敢かつ献身的な戦士のこと）は、2019 年にロシア軍が運用を開始した移動式の地対空ミサイルシステムで、弾道および空力の両方の目標を破壊するように設計されている。これらの目標には、戦闘機、無人航空機、米国製のトマホークや英国製のストーム・シャドウなどの巡航ミサイルが含まれる。

S-350 は、自走式発射装置、電子空間スキャン機能を備えた全方位レーダー、指揮所で構成されている。また、特殊な車輪付きシャーシ「BAZ-69092-012」が利用されており、5 分以内に警戒態勢に入ることができる。このシステムは、16 の空力目標と 12 の弾道目標を同時に攻撃できる。

S-350 は、空力目標を射程距離最大 120 キロメートル、高度最大 3 万メートルで破壊できる防空システム。弾道標的の場合だと、射程距離は最大 30 キロメートル、高度最大 2 万 5000 メートル。

ロシアの対空ミサイルシステム「S-350（ヴィーチャシ）」は、世界で初めて、戦闘下で完全自動制御で特別軍事作戦区域の敵の航空目標を撃墜した。この「勝利の」防空システムの特徴は何だろうか？そして、米国の地対空ミサイル「パトリオット」と比べて、どのような点で優れているのか？

「撃ちっ放し」

軍事専門家のユーリ・クヌートフ氏はロシアのメディアの取材に対し、人間が標的を見つけ、手を伸ばして標準を合わせるには時間がかかるが、この場合スピードが重要なのだと指摘している。

「S-350 は自動制御では、人間が手動で目標を破壊しようとする場合に比べて 10 倍速く処理する。これは当初、自動制御で目標を攻撃するために設計されたシステムなのだ」

クヌートフ氏によると、米国のジャーナリストでさえも S-350 を「巡航ミサイル・キラー」と呼んでいる。このシステムは自動誘導式であるため、「撃ちっ放し能力」の原理に基づいて作動する。

ロシアの「ヴィーチャシ」と米国の「パトリオット」

軍事オブザーバーのアレクセイ・スコンキン氏がロシアメディアの取材に対し、S-350 の弾薬の数はパトリオットの 3 倍だという。

「S-350 は発射装置 1 つにつき 12 基のミサイルが搭載されているが、パトリオットの場合は 4 基だ。S-350 には発射装置が 4 つあるため、ミサイルの数は 48 基になる。重量級の一斉射撃だ。（中略）奇妙なことに、皮肉なことに、探知、追跡、照準、目標への誘導などの技術が発達したにも関わらず、量的な要素は必要なのだ。防御側が対ミサイルを多く持てば持つほど、攻撃側が戦闘任務を遂行するのは難しくなる。このような防空網に過大な負荷をかけることは非常に難しいからだ」

政治・軍事分析局のアレクサンドル・ミハイロフ局長によると、S-350 のミサイルは飛行速度が高く、低空飛行の標的を攻撃できる。さらに、S-350 は高度 10 メートルの目標を攻撃できるのに対し、パトリオットは高度 100 メートル未満の飛行物体を撃ち落とすことができない。

●【視点】ウクライナ　ロシア人に対する「殺害許可」と共に米国製兵器を入手＝軍事アナリスト（2023年5月25日）

ウクライナはロシア西部ベルゴロド州襲撃を起こす前に、ロシア領に向けてロケット弾などで砲撃を行った。これらのことから、ウクライナ政府が米国から提供された兵器を使ってロシアを攻撃しても、米国は全く気にしていないように見える。

また、ベルゴロド州襲撃の際に米国製の軍事装備品を使用していたという報告が出ているが、米国政府と軍関係者は、そういった兵器を使用してウクライナがロシア領土を攻撃することを黙認しているように見える。しかし、その一方で、米国は慎重な態度を取り始めている。

しかし、米政権はウクライナに供与する兵器は、ウクライナがロシア領内への攻撃に使用することはない、少なくとも想定していないと繰り返し主張しているが、軍事アナリストで退役ロシア海軍将校のワシリー・ダンディキン氏によれば、こうした主張には本質的に何の価値もない。

スプートニクの取材に応じたダンディキン氏は、この状況を「よくあるゲーム」だと指摘した。米国は、ウクライナが米国から供与された兵器を特定の方法で使用することを公に禁止しているが、実際にはウクライナ政府がこの兵器でやりたい放題することを許している。

同氏は、ウクライナ政府によるロシア領への攻撃と、ウクライナの武装勢力がベルゴロド州に襲撃したことに関して、「最初は多連装ロケット砲（MLRS）による攻撃、次に長距離砲による攻撃と迫撃砲による攻撃、そして今はこの（凶悪犯）がやってきた」と述べている。

米国は以前、具体的には 2022 年 2 月 24 日まで、ウクライナは東欧で最も腐敗した国だと表現していたにもかかわらず、大量の武器を提供し続けることに満足しているようだとダンディキン氏は指摘している。

こういった兵器の輸送は、米国の軍産複合体に莫大な利益をもたらすという事実を考慮すると、米国政府は、たとえそれが小型兵器や携帯型対戦車ミサイル、対空ミサイル発射装置であったとしても「兵器輸送を続ける」ことに満足しているようだ。同氏は、当初はウクライナ向けだった兵器が中東で出現し始め、最終的には欧州の他の場所にも出現する可能性があると指摘している。

また同氏は、ベルゴロド州への急襲は、2014 年以降ウクライナ政府がドンバスで行った残虐行為と同様、ウクライナのウォロディミル・ゼレンスキー大統領に対してロシア人を殺すための「ライセンス」が発行されたという事実を浮き彫りにしているとみている。

ダンディキン氏は、「そしてすべての事柄が許され、どこからも（質問が）出てこない。せいぜい、国連がいかに懸念しているかを表明し、すべての人に平和を築くよう呼びかけるだけだ」と述べている。

●ウクライナ和平へ 中国・ブラジルが“仲介外交”（TBS NEWS，2023年5月27日）

ロシアとウクライナの戦闘が続く中、和平に向けた仲介に関して、ブラジル大統領が話し合いの準備ができたと表明したほか、中国が欧州諸国にロシアが占領した状態での停戦を提案したと報じられています。

ブラジルのルラ大統領は 26 日、プーチン大統領と電話会談をしたと表明しました。ルラ氏は中国、インド、インドネシアとともにウクライナ和平に向けて、ロシア、ウクライナ双方と話し合う準備ができていると伝えたとしています。

一方、中国ですが、ウォール・ストリート・ジャーナルは 26 日、西側の関係者らの話として、中国の李輝ユーラシア特別代表が今月ヨーロッパを歴訪した際、ウクライナの領土をロシアが占領した状態での停戦を各国に提案したと報じています。

また中国の李特別代表は 26 日にロシアを訪問し、ラブロフ外相らと会談。しかし、ラブロフ氏は中国の積極的役割を評価したものの、「和平交渉の再開をウクライナと西側が妨げている」と従来の立場を繰り返しています。

●中国、「ロシアの占領」容認か＝特別代表、欧州歴訪終える（時事通信、2023年5月27日）

欧州歴訪中の中国政府の李輝ユーラシア事務特別代表は26日、最後の訪問地モスクワでロシアのラブロフ外相と会談し、各国政府とのこれまでの協議内容を報告した。これに関し、米紙ウォール・ストリート・ジャーナル（電子版）は西側当局者の話として、ロシアがウクライナ東・南部を占領した状態での即時停戦を呼び掛ける「和平案」を、李氏が仏独などに提示したと伝えた。

ウクライナのポドリャク大統領府顧問は報道を受けてツイッターに投稿し、「ウクライナ全土の解放を想定しない妥協のシナリオ」だと指摘。「民主主義の敗北、ロシアの勝利、プーチン政権の存続、国際政治での衝突急増を容認するのに等しい」と批判した。

●トルコ、28 日に大統領決選投票 「強い指導者」与野党競う（2023年 5 月26日）

【イスタンブール共同】トルコ大統領選の決選投票が 28 日、行われる。一部の世論調査によると、第 1 回投票で首位の現職エルドアン大統領が優位を保っているもようだ。追う野党統一候補クルチダルオール氏は、民族主義を重視するエルドアン氏支持の有権者切り崩しを狙う。両候補が「強い指導者」を競い合っている。

強権的なエルドアン政権の是非が問われる。北大西洋条約機構（NATO）加盟国でありながらロシアに接近してきたため、続投なら欧米とのあつれきも続きそうだ。欧米重視のクルチダルオール氏に政権交代すれば影響は内外に波及する。

●雇い兵組織「ワグネル」がバフムート市から撤退開始、代表が動画で表明（BBC, 2023 年 5 月 27 日）

ロシアの雇い兵組織「ワグネル」の代表は 25 日、同部隊がウクライナ東部バフムートからの撤退を開始したと発表した。

ワグネル創設者のエフゲニー・プリゴジン氏は先に、6 月 1 日までにバフムート市にロシア軍に引き渡すと表明。一方、ウクライナは同市の一部をまだ掌握しているとしている。

プリゴジン氏は 25 日、バフムート市内で撮影された動画をメッセージアプリ「テレグラム」に投稿。「我々はきょう、バフムートから撤退する」と述べた。

BBC ヴェリファイ（検証チーム）は、この動画がバフムート東部の薬局の近くで撮影されたことを特定した。

プリゴジン氏は動画の中で、ロシア軍のために銃弾を残しておくよう戦闘員に指示している。また、ロシア軍を補助するために一部の戦闘員を残すつもりだと付け加えた。

「ロシア軍が難しい状況に置かれた場合は、我々は立ち上がるだろう」とプリゴジン氏は述べたあと、2 人の戦闘員に「ロシア軍をいじめないよう」警告した。

プリゴジン氏はロシア軍幹部について繰り返し、ワグネルを支援していないと公然と批判してきた。先月には、必要な弾薬が提供されないなら部隊を撤退させると脅した。

こうした中、ウクライナは同市の陥落を認めていない。

ウクライナのハンナ・マリャル国防次官は 25 日、自軍が依然として南西部リタク地区の一部を支配していると述べた。マリャル氏はテレグラムへの投稿で、「敵は郊外のワグネル部隊を正規軍の部隊に置き換えている。町の内部では、ワグネル部隊がまだ存在している」と説明した。

バフムート攻防戦はこの戦争で最長の戦いとなり、最多の犠牲者を出している。

アナリストらは、バフムートにはロシアにとって戦略的な価値がほとんどないと指摘する。ただ、今回の戦争で最長の戦いになっているだけに、制圧すれば象徴的な勝利になるとみている。

ワグネルは数カ月にわたりバフムートに戦力を集中してきた。戦闘員を絶えず送り込み続ける消耗戦術によって、ウクライナの抵抗を徐々に削いでいった様子。

プリゴジン氏は、2022 年 2 月のロシアのウクライナ侵攻開始に伴い、雇い兵組織を指揮者として頭角を現した。

ワグネルはロシア国内の刑務所で、罪の重さに関わらず、ウクライナでワグネルのために闘うことを条件に、数千人の受刑者を雇い入れた。

アメリカは今月、ウクライナでの戦争でロシア兵が 2 万人以上死亡し、8 万人が負傷したとの見方を示した。BBC はこれらの人数を独自に検証できていない。

ウクライナはバフムートでの犠牲者の数を発表していないが、同様に大きな被害を受けている。

ロシアはバフムートを制圧すれば、ドネツク州全域の支配という目標に少し近づくことになる。ドネツク州は、昨年 9 月にロシアが併合を宣言したウクライナ東部と南部の 4 州の一つ。併合が宣言される前には、それらの州で住民投票が開かれたが、ロシア以外の国は不正だと非難した。

ロシアによる侵攻前、バフムートには約 7 万人が暮らしていたが、現在は数千人しか残っていない。

かつては塩、石こう鉱山、ワイン醸造などで有名だった。

●ロシア・ベルゴロド州襲撃、ウクライナから侵入した戦闘員は何者なのか（BBC News, 2023 年 5 月 26 日）

複数の戦闘員が、ウクライナから国境を越えてロシア西部ベルゴロド州に侵入した。クレムリン（ロシア大統領府）はこれらの戦闘員を「破壊工作員」と呼び、「対テロ」作戦を発動する事態となった。

2 日間にわたる戦闘の末、ロシアは反乱軍を包囲して 70 人以上を殺害し、残りの戦闘員をウクライナ側へ押し戻したと発表した。これらの戦闘員について、ロシアはウクライナの武装勢力だと主張している。しかしウクライナ政府は、ロシア政府と敵対する 2 つのロシア準軍事組織に属する戦闘員だとしている。

ウクライナ当局によると、彼らはウクライナ人のための「安全地帯」の設置を目指す、準軍事集団「自由ロシア軍団」と「ロシア義勇軍団（RVC）」に属するロシア人だという。

両集団は過去に、ウクライナの領土防衛に関わる国際部隊（外国人部隊）の一員と称されたことがある。

ウクライナ軍情報当局のアンドリイ・ユソフ氏は、両集団は「ロシア領内で自律的に」活動しており、ウクライナ人は関与していないと述べた。ウクライナのテレビ放送では、民兵と「ロシア人義勇兵」で構成されていると報じられた。

ロシア義勇軍団

今年 3 月、ウクライナから国境を越えてロシア・ブリャンスク州に侵入した武装集団によって、襲撃事件が起きた。45 人が関与したとされるこの襲撃に加わっていたロシア義勇軍団（RDK）は、これを機に注目されるようになった。

未確認のロシア側の報告によると、銃撃が起き、死傷者が出たり、人質になった人がいた。一方で RDK は、ロシア人に政府への反抗を呼びかけるために越境したとし、人質をとらずに安全にウクライナ領内に撤退したという。

RDK のリーダーは、デニス・カプースチンまたはデニス・ニキーチンの名で知られるロシア人ナショナリスト。同集団は公然と、ロシアは単一民族国家だという考えを信奉している。

ウクライナの調査ウェブサイトは 2020 年、デニス氏がネオ・ナチ系グループとつながっていると主

張した。同氏は過去に、サッカーのフーリガン運動に自分が属していると語っていた。